

柔らかなココロ



「女性審判員」

“女性審判員意見交換会”という会議が講道館杯の初日に行われた。もちろん、全日本柔道連盟では初めての試みで、何やら全国の女性のSライセンスAライセンス所持者が30名程度集まり、女性審判員の数・資質の向上や活躍の場の拡大などを考える為の前を向いた会議らしいという事だけ情報が入り当日を迎えた。

ひとまず、山口県の女性審判員の現状だけは知っておこうと資料を漁り女性審判員の人数をカウントしたところ、11名（Aライセンス2名・Bライセンス1名・Cライセンスは8名）という数字が出た。

あれれ？11名しかいないのか、と、思っちゃったのは私だけだろうか。こうやって数字だけみると本当に少ないんだなあ…と、思ったと同時によく考えると男女参加の試合会場に女性審判員私だけとかよくある話だなあ…と過去を振り返った。

なぜ？女子プレーヤーはこんなにいるのに委員や審判員になるとこんなに少なくなる現実。

確かに家庭に入ってしまうと、土日に家を空けることは理解のあるパートナーでない限り良い顔をしないのも確かだし、子どもが小さかったら、なおさら出て来られないことが現実である。それでもスポーツを支える側の人間として柔道に関わりたいという女性は積極的に活躍してもらいたいし、何より審判は経験がモノをいうものなので、どんどん会場に出てきて欲しい。「子どもが…」という声にも対応すべく近年では全日本柔道連盟で講道館杯・全日本選手権にスマイルルーム☺(託児所)を設置し、ワーキングマザー及び子育て家族を応援している。

私自身、産後2か月半で仕事に戻り、審判は3ヶ月で復帰した。これは出産前から復帰を高らかに宣言し、順調に出産できたからだ。そして、何より周りのサポートが充実し、私の意志を尊重して仕事や審判に快く送り出してくれたからだ。そう、私は恵まれているのだ。

だから、冒頭の“女性審判員意見交換会”で私のこのような復帰の経験を話したがピンとくる女性審判員は少なかったと思う。しかし、こういう女性のスタイルもあることも分かって欲しいと願い発したこの経験談がいつの日か‘こんなことフツーよね’と言える未来になると、女性審判員の数は劇的に増えると思っている。

そして、男性だろうと女性だろうと、その人らしく活躍できる未来に向かい、今日も私は家族の為にご飯を炊き、道場で柔道衣に着替え稽古をし、息子のおむつを毎回せつせと替えている。

(近藤 優子)